



冬期自然採食地の話

サンクチュアリでは、越冬のために鶴居村に集まるタンチョウが給餌だけに頼らず自然の餌も採れるようにと、村内に17か所の「冬期自然採食地」を整備してきました。冬期自然採食地では、冬の間タンチョウの利用状況や餌資源量を調査し、その結果をもとに、タンチョウにとってより良い環境を目指して夏場に整備作業を行なっています。8月22日、大学生5名と一般の方2名の7名にご協力いただき、整備作業を行ないました。

過去の冬期採食地整備では、タンチョウが利用しやすいように倒木の除去や藪払いが主な作業でした。確かに、倒木や流木を除去し天敵のキツネが身を隠す藪が取り払われた小川は、タンチョウにとっては歩きやすく安心安全な場所になっていました。ところが、流木や倒木、周辺の藪が取り払われた開けた小川は、タンチョウのエサになる魚やカエル、魚のエサになる川虫などの生きものにとって生息しやすい環境とは言えないのではないか？どんなに安心安全でも、食べられる物が少なければタンチョウの餌場としては厳しいのでは？と気がつきました。そこで、この数年は、タンチョウのエサとなる生きものを増やすことに重きをおいて、倒木を残し、小石をまくなどの試行錯誤をしながら整備をしています。



水制工設置の様子



作業後、水制工の前で記念撮影

今回整備した自然採食地は、牧草地に隣接する小川です。周辺の丘陵地帯から湧き水が流れこみ、冬でも凍ることのない川幅3mほどの小さな流れです。草地改良のため牧草地の縁を直線状に流れています。この真っすぐな小川の流れに変化をつけるのが今回のメインの作業です。

小川自体は直線ですが、水の流れが左岸側、右岸側へと蛇行しながら流れるように、左右の岸辺に丸太を突起状に設置しました（水制工と言います）。実は、この場所への水制工の設置は3年目。1年目は前後の間隔が狭すぎたため、降雨時の増水で流されてしまいました。その後、専門家に現場を見ていただき、水制工の幅や間隔を見直しました。昨年度設置した水制工は、1年たった今でもちゃんと機能しています。今年は、その下流部にも水制工を設置し、新たな取組みとして、カエルの越冬場所となるように落ち葉を詰めたカゴを川底に固定しました。カエル好きの私としては、越冬したカエルがタンチョウのエサになるかと思うと切ないのですが、これも自然の摂理、食物連鎖の一員となれることを、きっとカエルも喜んでくれるはず！？

この冬もこの場所で餌資源量調査をする予定です。今から結果が楽しみです。